



ふじもとともこ
藤本智子

にほんきょうざんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

安心して暮らせる地域 包括ケアシステムを

問 津市内の病院ベッドを800床削減する地域医療構想案が取りまとめられた。そうしたもとで、地域で安心して暮らし続けることができる地域包括ケアシステムをどう構築していくのか。多職種連携の強化が求められる。緊急時の対策である絆のバトンの普及は地域によって格差が生じている。市の責任で格差是正に取り組むべきではないか。

答 地域医療構想案については、三重県に対し、病床数を強制的に削減するという趣旨のものではないということを確認しながら意見を述べていく。

多職種連携は、津地区医師会、久居一志地区医師会、県立一志病院が中心となり、研修会や勉強会に数年前から取り込まれ、地域で医療、介護、福祉の多職種の交流活動が活発に行われ、顔の見える関係が構築されてきた。

絆のバトンの普及については、各地区の社会福祉協議会に配布の協力をお願いしているが、まだまだ進んでいない状況である。今後は配布の仕方の工夫や、役立つ事例の情報提供など、導入しやすい環境づくりに取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- いきいきサロンにおける食事提供に対するガイドラインの作成を
- 新総合事業の住民説明会を
- 地域要望に應えるため、インフラ整備予算の拡充を
- 市営住宅家賃など私債権の滞納処理を進めるための条例制定を
- 獣害対策強化のため、協議会立ち上げにもっと支援を など



▲地区社協お任せでなく、市の責任でバトンの普及率向上を



ほりぐちじゅんや
堀口順也

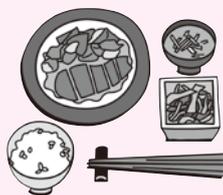
こうめいどうぎいんだん
公明党議員団

生活習慣病の予防で、 健康寿命の延伸を

問 生活習慣病が全死亡原因の約半数を占め、働き盛り世代の健康や命に関わる疾病に影響を与えている。偏った食生活、運動不足または喫煙などの長年の生活習慣の積み重ねがその原因である。活動量計を使ってからだの状態や運動量などを「見える化」することで、1人当たりの年間医療費を約1万8000円削減した「タニタ健康プログラム」の導入を。

答 活動量計については、経費の面や企業とのコラボなども考えていかなければならないが、健康づくりのきっかけとして、市民が出入りする場所に体重計などを設置し、気軽に測定していただけるようなコーナーをつくることなどにより、はかる、わかる、気づく、そして変わるという生活習慣を見直すきっかけとなるような工夫ができればと考えている。

また、市役所地下の食堂で、カロリー計算された健康的なメニューの提供についても関係部局と相談していく。



●その他の質疑・質問●

- 従来の障がい者に対する就労支援（福祉的就労か一般就労の二者択一）に風穴を開ける第三の職場といわれる「ソーシャルファーム」の推進で、社会的な理由によっていろいろな困難に直面している人たちの雇用を
- 後見人になるのは親族や弁護士など専門職が中心であるが、成年後見の需要の増加に伴い、市民後見人の養成を など



▲ご当地エネルギーの推進で、電気の地産地消を